

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 31日から2月1日にかけて、高気圧が日本付近を東へ移動する。
- 2月1日から2日にかけて、低気圧が西日本から東日本付近を東進する。
- 3日は、日本付近は冬型の気圧配置となり、4日は、冬型の気圧配置が強まる。

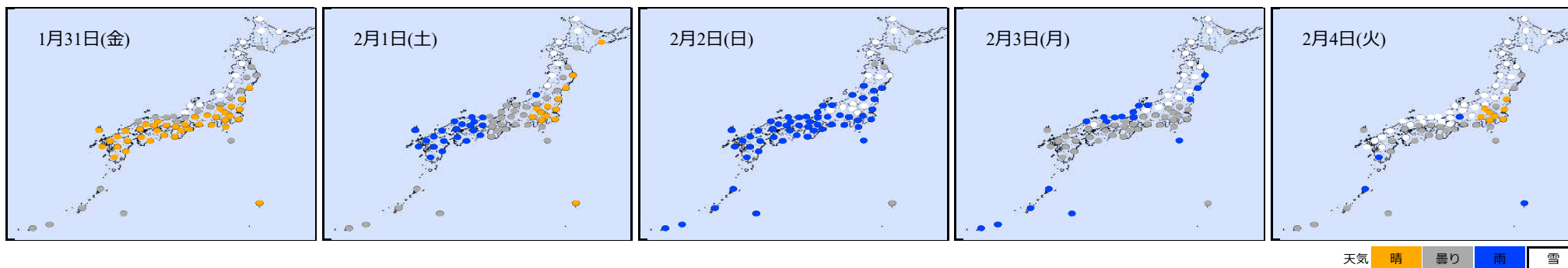
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 2月4日頃から、日本付近に強い寒気が流れ込むため、東日本から西日本の日本海側を中心に降雪量がかなり多くなる可能性がある。今後の資料に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

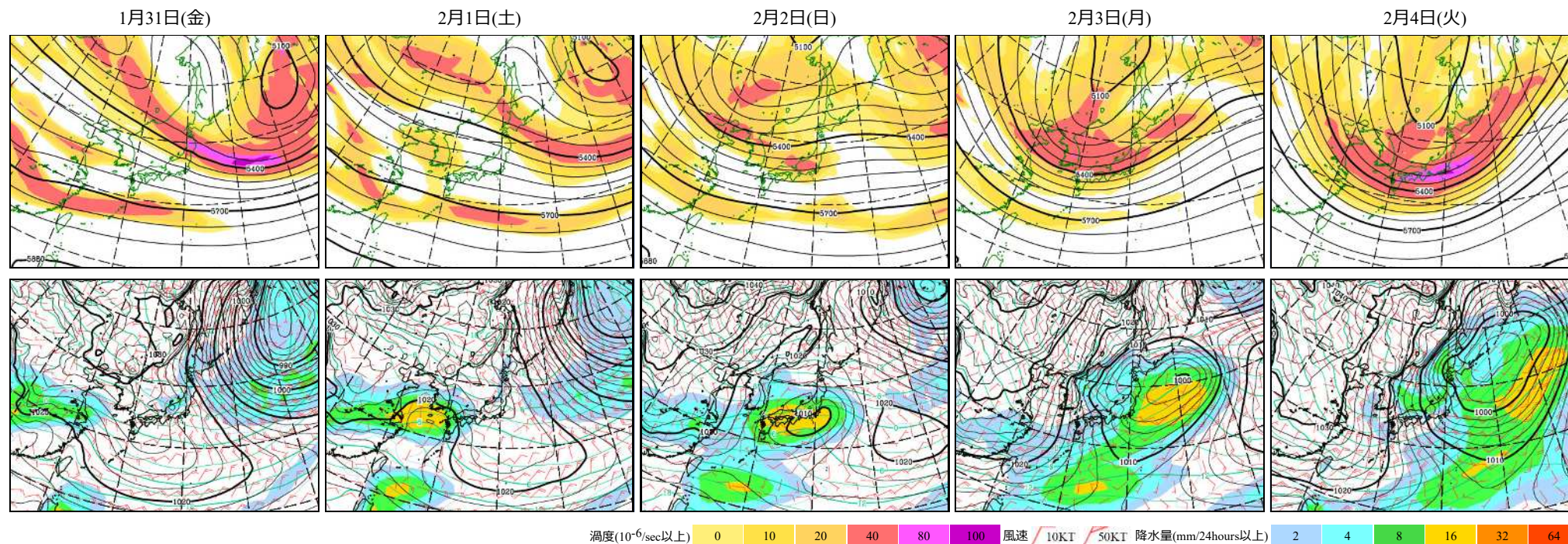
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

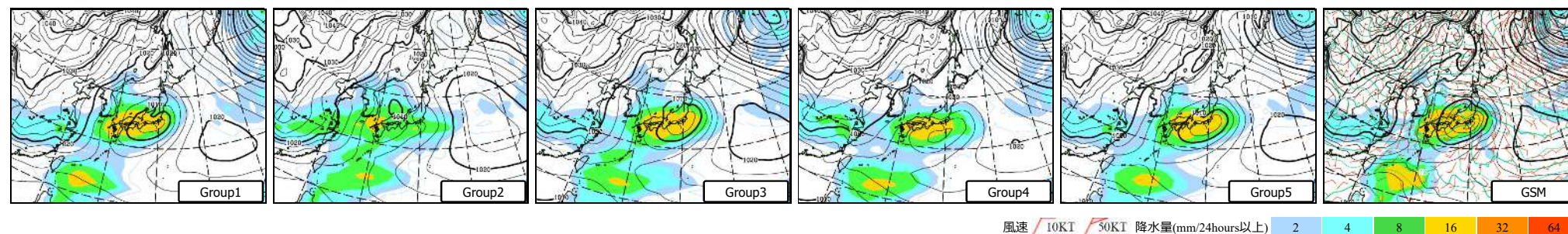


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、31日は晴れる所が多いが、その後は雲が広がりやすく、雨または雪の降る日がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく雨の降る日がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月2日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、2月1日以降の東西の流れが遅くなった。
- 2月1日から2日頃にかけて日本付近を通過するリッジの予想が初期値変わりしたモデルもあるが、昨日資料と比べてモデル間の差は小さくなった。
- 2日の低気圧の予想は、各モデルともに南岸を進む予想で揃っているが、ENSのメンバーには日本海を進むと予想するメンバーも若干含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。